
FREQ NONE or ANNUAL or MONTHLY or QUARTER or WEEKLY
 FREQ 数値 ;
 FREQ(PANEL, ID=ID 系列, T=値, N=値, TIME=系列, START=日付)
 N or A or Q or M or W or 値

機能 :

FREQ は TSP プログラムの実行に使われる変数系列の期種を定めます。FREQ は TSP プログラムの途中で変更することも可能です。しかし同一のプロシジャーの中で異なった期種の変数を用いることはできません (この規則の例外として、CONVERT を参照して下さい)。PANEL オプションは任意の FREQ N 系列をパネルデータとして解釈するために用いられます。すなわち、個人を次の個人と識別する方法を TSP に知らせるためのものです。これらのオプションは、パネルデータをサポートする PANEL,AR1,PRINT のようなその後の TSP コマンドで用いられます。

使用法:

FREQ はとても簡単です。FREQ に続いて上の期種の中からどれかを選びます。一文字の簡略型も許されます。

ANNUAL, MONTHLY, QUARTER, WEEKLY といった期種は、それぞれ年に 1, 12, 4, あるいは 52 個の観測値があることを意味します。年はもし 2 桁ならば 1900 を基準とし、4 桁ならば 0 を基準とします。基準年を BASEYEAR=オプション (詳細は OPTIONS コマンドの項を参照) を用いて、リセットすることができます。TSP における日時の形式は、つねに YYYY: PP といった形を取りますが、ここで YYYY は年を示し、PP は期 (月) を示します。PP は 1 と期種の間任意の数値をとることができます。もし、期種が年次 (ANNUAL) の場合には PP は省略しても構いません。週の期種の場合は正確に年 52 週を仮定しており、四半期に CONVERT ですが、月次にはできません (TSP はカレンダーを持っていません)。もし指定した期種が数値なら、それは年当たりの期の数を表します。

デフォルトの期種は NONE になります。この期種は、時系列でないデータを利用する際に便利です。この場合、特に標本期間を指定しない限りデータは第 1 番目の観測値から並べられていると仮定されます。

例:

```
FREQ  A ;
SMPL  1890  1920 ;
```

この例ではデータは年次データで、1890 年から 1920 年まで続くことを意味します。

```
FREQ  QUARTER  ;
SMPL  47:1  82:4  ;
```

この場合は、データは四半期データで、1947 年の第 1 四半期から 1982 年の第 4 四半期まで続くことを意味します。

```
FREQ  26  ;
```

FREQ

この場合は、2 週毎の期種を持つデータを示します。

```
FREQ (PANEL,T=5) ;
```

この場合は、各個人当たり 5 つの観測値を持つバランスしたパネルデータを示し、特定の時系列の期種はありません。

```
FREQ (PANEL,ID=CUSIP,START=1974) A ;
```

この場合は、多分非バランスのパネルデータで各個人を区別する ID 系列 CUSIP があり、各個人毎に 1974 年から始まる年データです。

アウトプット

スカラー変数 @FREQ が現在に期種の値と共に保存されます。この変数は、PROC で期種と標本を保存するのに用いることができます。たとえば、COPY @SMPL SMPSAV; COPY @FREQ FRQSAV; を、PROC の最初で用いて、最後に FREQ FRQSAV; SMPL SMPSAV; を用いることができます。